

議長（高木将君） 次，14番片野宗隆君の発言を許します。

〔14番 片野宗隆君登壇〕

14番（片野宗隆君） 14番，新生会の片野です。議長のお許しをいただきましたので，ただいまから一般質問を行います。

学校統合に伴う廃校の有効活用についてでございます。

三位一体の行政改革のもとに，地方分権化を基本理念とし，また特色ある地方行政の構想と具体的な施策推進が，全国的に目立ってきております。これらの構想や具体的な施策は，それぞれ市町村の特色やニーズに即したものであり，確かに長期ビジョンのもと，創意工夫に富んだものであることを指摘されます。

さて，本市の金砂郷地区の北部の山間地は，過疎化，少子化に伴い，近い将来，金砂小学校が金郷小学校と統合し，北中学が南中学と統合することになっております。このような学校の統合により，金砂小学校と北中学は廃校となります。この学校は，いずれも美しい自然環境に恵まれた，校舎も高台に位置し，施設・設備も整備されております。このような廃校となる校舎跡地を有効に活用するにはどうしたらよいか。地方分権化を踏まえ，本市が，金砂郷北部地区の実態や特色を生かした創意工夫を，行政として，この構想や具体的な施策を充実していくことが重要であると考えます。そこで，これらの廃校を有効活用し，次の2点について構想と提案をさせていただき，市長の見解をお伺いいたします。

まず1点目は，北中学の校舎跡地を生かし，市立産業大学校を これはあくまでも仮称であります 創立するという構想でございます。その大学校，各種学校は，地域と大学の連携により，地場産業である農業，林業，工業などの地域振興と地域人材の育成を図ることを目的にし，創立するものです。修了年限は2年程度としますが，準じて4年にも行ってもよいのではないかと考えてございますが，入学対象者といたしましては，将来地元で定住し，地元の産業に従事しようとする高校卒業以上の青年や，団塊の世代として定年退職し，当地に移住し，農業に従事したいと考える熟年者の幅広い世代を考えております。

ご承知のとおり，当金砂郷地区は，常陸秋そばの産地であるとともに，コシヒカリ米の産地として全国的に知られております。また，豊かな森林育成や木材加工，シイタケ栽培などの林業も目立っております。さらに，今，十分な機能をしていないハイテクパーク金砂郷の工業団地が隣接しております。これらの地域の実態や特色を生かし，市立産業大学校 仮称ですけれども ，地域産業が連携を図りながら，地域産業振興のあり方や生産向上，品種改良，技術革新などに関する研究実践を進めようとするものであります。これによって，地場産業の発展と活性化が期待されるとともに，将来地元の産業に従事する人材を育成することにもなり，過疎化対策の上からも大変有効な行政としての構想施策であると考えるところであります。

2点目は，小学校の校舎跡地を生かした高齢者いきいの広場，グループホームセンター あくまでも仮称になりますけれども を設立するという事です。この施設は，市

内のお年寄りがさまざまな交流活動や情報交換を通じて、楽しく心豊かな生活を過ごすための広場づくりを目的とするものであります。

本市は、高齢化が急激に進行しております。お年寄りに生きがいと喜びが実感できる環境づくりとしての福祉行政が、より一層重要になってくると考えます。本市には、ひとりぼっちの寂しい生活をしているお年寄りが多いと聞かされております。今まで社会に貢献してきたお年寄りが、余生に生きがいと喜びが実感できる環境づくりこそ、今日の課題であると考えます。金砂小学校施設は、きれいに整備がされており、周辺は美しく静かな自然環境に恵まれており、このような施設の設置には最適な場所であると考えます。

以上、学校の統合に伴う廃校の有効活用について、具体的な構想と提案を述べてまいりましたが、このような構想に対して市長はどのようにお考えになるか、また、行政当局として、北中、金砂小学校の廃校後有効活用について具体的な構想をお持ちであるのか、あわせて伺いをいたします。

第1回目の質問を終わらせていただきます。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 学校の統合に伴います廃校の有効活用についてご質問がございました。

まず最初に、北中及び金砂小の校舎跡地の再利用についてのご質問でございますが、ただいま現在、この統廃合に関しましては、校舎跡地等の利用につきましてまでの段階には至っておりません。なぜならば、それぞれの統廃合対象になっております小中学校のPTA等についての説明会等を、今ほぼ完了いたしまして、まだその途中の学校もございます。今後、地域の皆様とも、統廃合についてご意見をいただく説明会等を実施してまいりたいというふうに考えております。そして、合意のできましたところから、小中学校の統合に向けて進めていきたいというふうに思っております。

仮に、地域説明会、PTA説明会等で意見の合意形成が図れないという場合には、複式学級が2つ、あるいは3つになってもその学校を続ける中で、統合に向けた話し合いをさらに進めていこうというふうに、今、手順的には考えておるところでございます。

ただいま片野議員からは、産業の振興と人材育成を図る産業大学並びに高齢者のいこいの場の設置というご提案がございました。このご提案をいただきましたこと、まことにありがとうございます。しかし、先ほど申し上げました状況下を踏まえまして、今後、この統廃合が決まりましたときの廃校となります学校についての利活用につきましては、地域の皆様と意見を交わし、合意形成がされましたときに、地域の皆様のご意見を入れた活用方法を決定してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

議長（高木将君） 14番片野宗隆君。

〔14番 片野宗隆君登壇〕

14番（片野宗隆君） 2回目の質問に入ります。

中央集権から地方分権に移り、いよいよ本市においても、国の下した三位一体の改革などにより、地方財政に厳しく予想されてまいりました。国の方針では、あめとむちによって平成の大合併をなされたわけございまして、あめというなら、特例債260億をあげるから、市町村合併をして、早く立ち上げていただきたいというような指向でございまして、地方分権の基本の我々としては、薄いということございまして。そういう中において、本当に立原議員からもありましたように、やはり財政面においても、大変な財政に困惑しているのが現状ございまして、市町村合併に入りまして、早3年が経過しておりまして、本当に先ほどの……、要するに人口が年々減っているということに、意味が薄らいでいくのが現状であります。

寂しい限りであります。これもやはり全国的にいうと、少子化、高齢化が社会に対応され切れずに、環境保全、教育、文化すべての面で住民の主体性が失われていくのではないかと、寂しい思いをするわけございまして、これも、年代的に言えばやはり仕方がないのかなと思いますけれども、私は、それを頑張りながらも、やはり人口をふやしていかなければ本当に過疎が過疎化してしまうということにつながるのではないかとというふうに懸念をして、今まで18年間の議員生活の中で一生懸命取り組んでまいったわけですが、一例を申すならば、久米小学校が新しく新築した時点のときに、私は、初めて議会で一般質問を行ったときに、やはり太田、金砂、金郷小学校、郡戸小学校、久米小学校が既存の小学校を建てたということで、どうも久米小学校は小さいんじゃないかということ提案したことがあって、3教室を増設しろということ提案しましたところ、それは無理だということで、何の根拠があるんだということで議論をした経緯が、私には頭に残っておりまして、絶対に私は、今までの経緯からいうと、大里町はやはりあと300戸は……、その当時は260戸しかなかったんですね。それを300にまでふやすんだと、300戸ふやすんだから、ぜひひとつ責任を負うから創出をしていただきたいということで粘って、それにならなかったわけです。

そういうふうな観点で、やはり南北の格差がすごく出てまいりました。こう見ますと、私も全然知らなかったんですが、金砂小学校が現在では61名、久米小学校が381名、北中が121名、南中学校が283名と、やはり本当に南北の格差がこういうふうに広がったのかと思って、残念でならないわけです。

このふえたということは、私にとってもやはり死活問題ですから、一生懸命地域の方々と、住みよい環境づくりと、それから若い者の定住を図る前提で、ここまで持ってきたわけありますので、決して楽観的には思って……、厳しい道のりを歩んできた。だから、地域によっては議員の責任も多少は関係してきますよということ、私は言いたいと思います。

このようなわけで、今の時代に沿って、やはり市内でも高校が4校あるということですね。やはり進学率の加熱も最近では多くなりまして、ここの市内でも塾通いが多様化されておりまして、家庭にとってはなかなか大変だなと。

議長（高木将君） 14番議員に、発言中ではありますが申し上げます。事前に通告されました学校統合に伴う廃校の有効活用についてという論点から若干ずれておりますので、その点についての修正を加えた後、発言をしていただきたいと存じます。

14番（片野宗隆君） 全国から見ると、60%の進学率を、年々ふえていると新聞紙上で述べておりますので、そういった多様化の現象が近年においてどんどん高まってきていると。質の高さもそれに同行して、学士教育の意味合いからも、また国際化の進展に伴って、経済情勢すべての面から一層の身近な高度高度教育が進められているということになってくるのではないかというふうに思いまして、そういう中で、やはり大学も、合併して6万の人口を抱えていれば、1校やそのくらいの学校もあっても不自然でないのではないかということについて、市長のどのようなお考えをお持ちであるかということも含めて、再度質問をいただきたいと思うわけです。

議長（高木将君） 質問じゃなくて答弁ですね。

14番（片野宗隆君） 答弁です。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 産業大学等を中心とした当市内への大学等の誘致に関して、市長の所見をということでございます。お答えを申し上げたいと思います。

今、ご案内のとおり少子化の時代を迎えまして、全国にあります各大学校とも、生徒の獲得に躍起となっている状況下でございます。それぞれの学校の経営が成り立つかどうか、その瀬戸際にまで追い込まれているという実態が一方でございます。そしてまた、それぞれの学校は、それぞれの地域において特色を出さない限り、生徒の集まりが悪くなるということから、地方自治体、あるいは民間企業等と提携を結びながら、それぞれの地域でいかに生きていくかを、今、必死になって模索をしている状況下でございます。1つのアイデアとしての提案としては受け取れますが、現実問題としてはかなり厳しいものがあるというふうに思います。